

## 令和4年度 第3回社会教育委員会議 会議録

開催日時	令和4年10月14日 金曜日 9時30分から11時まで
開催場所	二宮町生涯学習センターラディアン ミーティングルーム1
出席者	森英夫教育長、蓮實茂夫委員長、久保田秀美副委員長、 関口金由紀委員、橋本由恵委員、山内みどり委員、中西美保委員
欠席者	稲葉通隆委員、三宅栄子委員、
事務局	椎野教育部長、竹本課長代理、加藤生涯学習班長、二見主任主事
その他	傍聴者なし

会議記録 (司会：竹本課長代理)

### 1. 開 会

### 2. あいさつ

### 3. 議 題

#### (1) 社会教育関係団体の補助金について

(委 員)

全体の話だが、各団体から補助金額のことで要望とか出ていたりするのか。もう少し増やしてほしい、もしくは使い切れないので減らして欲しいなど。

(事務局)

増額に対する要望は、予算の段階でヒアリングするのですが、特に増額ということでは伺ってはいない。

(委 員)

多すぎるという話もないのか。

(事務局)

多すぎるという話は特に出していない。ヒアリングの中で、次年度の事業内容を聞いている。

(委 員)

PTAの5校合同事業のスタンプラリーのルートはあらかじめ設定されているルートを通るのか、自由なルートを通るのか。

(事務局)

学区の SOS の家を 7 つ以上のチェックポイントの中から、好きなところを選んで回る。チェックポイントは、店舗や施設にお願いして、そこを回る形になっており、最寄りの小学校から東大跡地へ行くルートになる。

(委員)

学校からチェックポイントを回って、跡地へ行くルートが学校によってすごい距離に差がある。通る場所もまちまちになる。あらかじめ指定されたルートがあり、そこに人がいてそこを通って行くのか、子ども達の自由意志なのか、それによって見守り方が変わると思うのだが。

(事務局)

消防団員さんの全面協力、各地区の交通指導員さんの全面協力により実施されると告知チラシにある。

(委員)

ルートが事前に決まっているのか。子ども達はみんな同じルートを通っていくのか。危険個所に立っていただくのはもちろんだが、それ以外に預けた保護者が気になるときに、子どもの現在地を知ることはできるのか。

(事務局)

こちらとしては、どの道を通るとか把握はしていない。保護者からそういった懸念があるかもしれないので、あと 2 週間ほど時間があるため、安全管理、集合時の子ども達への指導などを PTA に伝える。

(委員)

各校の PTA で把握している範囲だが、小学校から跡地までのルートを何パターンか地図で作っていて、ポイントも学区によって数が違う。場合によっては自分の小学校区以外の子どもたちでも、違う学区のポイントを通る可能性があるため、ルートを何パターンか作って、大人も付き添う形にすると聞いている。

(委員)

各学校に見守り部隊があると思うので、声かけをすればいいのでは。

(事務局)

PTA が主催なので交通や安全への懸念があるということを伝える。

(委員)

収入がある団体さんに対する補助金というのが、8 団体、8 事業というのが例年通り支給しているが、これは変わらないという前提で話が進んでいるのか。

(事務局)

団体の今後の事業展開によっては、補助金の内容が変わる可能性がある。

(委員)

補助金は活動費である。申請に当たっては自分たちの活動を見直す良い機会であると思う。現状のまま、見直すこともなく同じように申請が上がってくるのは危惧すべき事態であると思う。

## (2) 生涯学習推進計画について

(委員)

生涯学習の情報として団体の活動を町のホームページで紹介してはどうか。

(事務局)

各団体の紹介を町側で作成し紹介することはできないが、町ホームページへのリンクの掲載や SNS を通じての周知はできる。また、町では各団体から得た情報を「身近な余暇ガイド」にまとめて掲載している。

(事務局)

資料 3 の 7 ページでは、情報発信ツールとして、今後、インターネットや SNS の活用が高まっていることが伺える。町としてはこれらを活用するための情報提供を行うことが団体の活動活性化の支援につながると考える。

(委員)

各団体にはそのようなスキルを持つ者は少なからずいるはず。町が、団体の情報を吸い上げて、広く発信していくことで活発な町をアピールでき移住促進等にもつながると思う。

(委員)

生涯学習に関わる年代は若者が少ない。インターネットなどを活用していった方が良いと思う。

(委員)

アンケートを見ると比較的高い年代層でもインターネットの需要が高まっている。町のホームページを見ると紙媒体での情報収集が多いため情報が取りにくい。各団体にホームページがあれば、その情報を簡単に吸い上げるフォーマットがあるとよいし、高い年代層の方にはそういったフォーマットの紹介や活用するためのスキルアップの支援をしていくことが必要だと思う。

(事務局)

最近、デジタルトランスフォーメーションの推進が謳われており、市町村においては、第一段階として窓口サービスがあげられ、余暇活動の推進など、可能なことを検討することが第二段階となる。先進自治体の事例等を研究しながら手法を検討していきたい。

(委員)

資料2のその他の意見にもあるように、ラディアンは町の中心であり求心力が高い施設である。今後大規模改修を迎えるわけだが、ここに社会教育委員としての意見が反映されることはあるのか。  
また、設問では「あなたの団体は」と「あなたは」と主語が異なるものがある。団体向けのアンケートなので、「あなたは」というのは団体全員の意見なのか。

(事務局)

3ページの間5にもあるように、団体全体に聞くべきものではないものは団体の代表者の方の意見としている。

(委員)

このアンケートは、こういった形で推進計画に入っていくのか。どう読み解いてどう分析していくのか。例えば複数回答の設問は円グラフのパーセンテージにそぐわない。見せ方を工夫していく必要がある。

(事務局)

今まで取り組んできたことに対して、利用者のニーズ又は、今後どうしてい

きたいかを踏まえて、町としてどう進めていくか、どこまでお手伝いができるのかを内部で協議していきながら進めていく。

(委員)

例えば年代や使用する時間帯など、設問の回答に偏りがあり、アンケートの対象とならなかった対象も多い。こういったところをどう紐づけていくのか。

(事務局)

今回のアンケートは町内の団体を対象に実施した。ラディアンの利用は町外の団体も多く、アンケートの対象外となったこれらの団体が、回答の少ない部分に該当している可能性もある。そういった団体のニーズ等のデータがあれば補填することもできる。

(委員長)

今後の策定スケジュールはどうなっているのか。

(事務局)

12月の会議で原案を出してパブリックコメントを行う予定だったが、スケジュールが後ろ倒しとなっている。年度内の完成を目指して進めていたが、スポーツ団体のアンケートもこれからとりまとめを行う状況である。着実に町民の意見を反映させる必要もあるので、年度内の完成にこだわらずに進めていく。

(委員)

資料2の9ページ「適切に評価」とあるが、生涯学習は評価を目的としていない。生かされる場があるという方が適切だと思う。

(事務局)

こちらについては、現行の計画の部分を引用している。3章以降にいただいた意見を反映させたいと思う。

(委員)

同じページに「地域主導の地域学校協働活動と学校主導のCSの一体的な推進」とあるが、いずれが主導ではなく一緒に進めていくという認識である。どこかで使用されたものなのか。

(事務局)  
確認する。

(委員長)  
資料 3 の最後のページにある意見・要望の 24 番に町民の方々とつくる協働のチームでみんなの居場所を作っていくという意見がある。今後、こういった仕組みにします、という社会教育委員の気持ちが伝わるとよい。

(委員長)  
アンケートの内容が十分に反映させられるよう進めてほしい。

### (3) その他

- ①子ども作品展について
- ②第 65 回文化祭について
- ③第 48 回民俗芸能のつどいについて
- ④第 7 回スポーツフェスティバルについて
- ⑤神奈川大学包括協定事業について

## 7. 閉 会